

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470700356		
法人名	有限会社 いのくち		
事業所名	グループホーム ゆかりの里		
所在地 (電話番号)	竹原市福田町堂沖尻1300番1 (電話) 0846-24-1287		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年2月23日

## 【情報提供票より】(21年1月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.2 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 315,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

### (4) 利用者の概要(1月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	5 名	
要介護3		名	要介護4	4 名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 94 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	米田歯科医院・馬場病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ゆかりの里」は、開所時より理念である地域の中で「入居者の方々が安らいで広がる暮らし」を具体化するために、多機能性を活かした柔軟な支援として、例えば、地域の自治会やふれあいサロン及び商店、駐在所、幼稚園、行政、地域包括支援センターなどの人達と関係を持ちながら、多様なニーズに対応するように努力されている。家族等と職員とのコミュニケーションづくりも良好のようであり、安心と信頼関係が伺え、また、地域とのつきあいは、近隣の人が買い物の帰りなどにホームに立ち寄られるなどされており、支援と理解が得られている。入居者の方々の多くは、持てる力を見出し、取り戻し、使い続けられることへの支援の下で、地域とつながりながら張り合いのある生活を送られていることも伺えた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題はなかったが、更なる向上を目指されて困難事例や課題を全職員が話し合っケアの意見の統一を今以上に図って取り組まれており、このことは家族等への大きな安心と信頼につながっていることが伺えた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者と管理者は、自己評価の目的や活用方法を職員全員とよく話し合ったうえで取り組んでおり、その結果を踏まえて、職員の意識あわせや支援の振り返り及び見直しにつなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に行き、入居者の家族、地域の自治会会長、民生委員、竹原市、地域包括支援センターの職員等、幅広い立場の人達が、運営推進会議の意義や役割を十分に理解して参加されている。会議の場では、事業所側からの報告とともに、参加者からも多くの率直な質問や意見等を受け、サービスの向上に活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7.8)</p> <p>運営推進会議や家族等の来訪時等のあらゆる機会を捉えて、意見や不満、要望を積極的に得ながら、出された意見等は前向きに受け止め、改善に向けてミーティング等よく話し合っ活かしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開所時より、地域で必要とされる活動や役割を担っていく取り組みがなされており、例えば自治会に加入して会合に出席したり、自治会の行事や地域で毎月1回開催されているふれあいサロンなどにも、入居者と職員がともに参加をしながら地域や地域の方々との交流に努めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は、理念をより具体化するために理念を掘り下げて話し合い、その上で目標を策定し、ミーティングの機会などを捉えて、日々の支援が理念に基づいたものとなっているかを確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会で行われる行事等には、入居者と職員が共に積極的に参加をしたり、ホームの様子を伝えながら地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解した上で、全職員が評価に関わりながら取り組んでいる。職員は分担して自己評価を行い、前回の自己評価で改善に挙げた項目についても、具体的な改善に向けての取り組みを継続して行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に家族、自治会長、民生委員、竹原市担当者、地域包括支援センターの職員等、幅広い立場の方々が参加されており、事業所からの報告とともに参加者からも多くの率直な意見や要望を受け、双方向的な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じて、市担当者に対しては事業所の実情や日々の取り組みなどをよく知ってもらい、課題解決を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は、出納帳や現在の報告をし、他には家族等の来訪時には入居者の健康状態や様子などを伝えている。また、面会に来られない方や、必要に応じて随時、担当職員が電話等で連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には、職員に気軽に話ができるような雰囲気作りを心がけ、また運営推進会議にも家族に参加してもらい意見や要望を表出できるように努めている。出された意見や要望等は、その発生要因を探り、課題を検討し、質の向上につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が交代する場合は、入居者への説明や対応の仕方、新しい職員への引き継ぎ方などで最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修には、なるべく多くの職員が参加できるようにしており、また日々のOJT教育も継続して実施しており、働きながら技術や知識を身につけるための取り組みや工夫がなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の地区別研修などの場を通じて交流や研修を行いながら、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に本人や家族に事業所を見学してもらうことから始め、また本人の生活歴等の情報を十分に得ながらスムーズにホームの生活に溶け込めるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>全職員は入居者に寄り添い、不安な気持ちに対しては安心感をもっていただくように声かけをするなどして、お互いに支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ミーティングなどでは、本人の希望や様子について話し合っ意向の把握に努めている。また、会話の中からも本人の気持を理解するように努め、穏やかな生活が送れるように支援をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員が日々の様子を観察し、入居者の変化をチームで共有しながら、介護支援専門員と一緒に話し合っ介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>常日頃から全職員は、新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認しながらアセスメントを取り直し、実情に即した、変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の生活圏の中にある、商店やふれあいサロン、駐在所、幼稚園等と関係をもちながら、これらを使いながら入居者の方々の望むくらしという多様なニーズに対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの一人ひとりの受診状況を把握しており、本人や家族等が希望する医療機関や医師に受診できるように支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書を作成し、状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと段階的な合意に基づいて、事業所が対応し得る最大の支援について説明を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃から、全職員は入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや、対応になっていないかを確認し、意識しながら支援を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのこれまでの生活環境をよく把握した上で、入居者の望んでいるペースに合わせた暮らしの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多くの入居者の方には力を活かして、配膳や食器洗いなどをお願いしたり、職員も入居者と会話をしながら楽しい雰囲気の中かで一緒に作り食べながら、食事を1日の大切な活動のひとつにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ、入居者の意向に沿いながらチームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に家族等から聞き取った生活歴を基に入居者一人ひとりに合わせて、洗濯物たたみ、お茶碗拭き、来客者へのお茶だしなど、ホームで役割をもてるように支援をし、張り合いのある生活作りに努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の入居者の状態や希望などその時々状況に応じて、散歩や買い物、ドライブ等に積極的に出かけたりされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は入居者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかみながら、職員が見守りや連携プレーで鍵をかけない支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消火器や避難路の確保等の設備点検を行うとともに、地域の協力体制については、自治会をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の記録となっており、食事や水分の摂取量のチェックが行われ、職員間で栄養や飲水量がどの程度取れているのか確認がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、五感への刺激に配慮されており、季節感を上手く取り入れながら居心地よく、一人ひとりが活動しやすくなるような工夫や配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭より使い慣れたものや、家族の写真等を持参していただき、その人が大切にしていたものに囲まれ、その人らしい居心地のよい暮らしの居室作りを支援している。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ゆかりの里

評価年月日 21 年 1 月 10 日

記入年月日 21 年 1 月 10 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 ホーム長 氏名 堂前 可子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に根ざしたホーム</li> <li>・ 交流を大切にし社会とつながりのある生活に努めている。</li> </ul>		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の和、人を大切にするホームを目指している。そのために繰り返しミーティングで話しあっている。</li> </ul>		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治会に入っている。地域の行事に参加してその都度理解してもらおうように働きかけている。社長の参加もされている。</li> </ul>		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームの行事に参加を呼びかけ顔馴染みになり普段買い物などの帰りなど立ち寄ってもらっている。</li> </ul>		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治会の会合、行事に参加して交流をもっている。月一回のふれあいサロンには、必ず参加している。</li> <li>・ 幼稚園、保育園の行事に参加している。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・通所サービスを開始して近所からの利用がある。		地域の方に安心してもらえる取り組みは常に考えていきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・全員で自己評価に取り組んでいる。		自らのサービスの質の改善をはかり改善につなげる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・利用者、家族、地域住民、地域包括支援センターや行政の職員、駐在所、幅広い立場の方に参加してもらっている。		報告や情報交換にとどまらず、話し合いを通じてメンバーから意見をもらい、それをサービス向上に活かしたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			市担当者に現場の実情等を積極的に伝える機会を持って考え方や実態を知ってもらうように取り組んでいく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・勉強会の時、理解を深めるようにしている。		当たり前の生活が継続できるように支援するためには、何が権利侵害になりやすいか何を擁護していくか、時間をかけて話し合う。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・啓発ツールを作成して日常のケアが基本に沿っているか振り返るのに活用している。		啓発ツールを利用しているか問いかける。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約時、事業所のケアに関する考え方や取り組みの説明をしている。</li> <li>・ 家族と対応方針を聞いている。</li> </ul>		契約時とりあえず利用契約してしまうことがあるので、利用側の立場にたち、将来のことをふくめて十分な説明をする。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議には、利用者参加でしている。その都度意見を傾聴している。</li> <li>・ 介護相談員の月一回の派遣があり、利用者の相談に乗ってもらっている。</li> </ul>		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月月初めに先月の生活の様子、小遣いの収支、行事等書いて報告している。</li> </ul>		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦情については、苦情申し立てがあり文書提出も可能であることを重要事項に記載している。</li> </ul>		苦情については、家族の立場に立って納得のいく対応をしていく。 苦情が出た場合その要因を探り反省材料にいかす。 家族会を設けることも必要と思う。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月の会議や日々いつでも聞く機会、姿勢はもっている。</li> </ul>		会社側は職員が自由に意見や提案を言える雰囲気を作っていく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の状況の変化に応じて必要な時間帯に勤務できる職員の確保を出来るように努めている。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者は環境の変化がもたらす影響が障害行動になりやすいので最小限に抑える努力をしている。</li> <li>・ 代わる場合利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</li> </ul>		<p>利用者は敏感に状況が分かるのでもっともっと配慮が必要だと思う。</p>
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症介護実務者研修基礎課程を受ける、機会を設けている。</li> <li>・ 研修の報告会をして共有している。</li> </ul>		<p>それぞれにあった研修の取り組みをする。年間計画をたて意義や目的をしっかりとって取り組んでいく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国グループホーム協会に加入している。</li> <li>・ 県内グループホーム協会主催の研修会に参加し交流や、意見交換をしている。</li> </ul>		<p>地域の同業者との交流する機会をもつ。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間的に難しいが、趣味活動を取り入れたり工夫をしている。</li> <li>・ 職員が利用者と離れて休息する場所を設けている。</li> </ul>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 慰労気持ちを常に表してもらっている。</li> </ul>		<p>心身の健康を保つために、健康診断をじっしする。</p>
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人のおもいや、不安を受け止め安心してもらおうようにしている。</li> <li>・ 時間を設けて傾聴している。</li> <li>・ 利用者によって通所を利用してもらい入所につなげている。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・家族の状況を把握するために、しっかり時間をとって傾聴している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・相談時本人や家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、必要なサービスにつなげている。		選択できるほどの知識をもって対応していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・本人、家族が事業所を見学してもらい納得されるまで待つ気持ちで接している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらから喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・その人らしさを知るために一緒に過ごす時間を持ち、寄り添うことによりお互いの存在を認め合い信頼関係をつくる。		長い人生を生きてこられた先輩として話しを聞きだし、教えてもらったり、共感したりする機会を増やしたい 共有する時間をつくる。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・利用者の様子や職員の思いを伝えたり、相談したり、状況を報告して一緒に考えて支えている。		家族の訪問の際に今までのこと、これからのことか希望されていることを話してもらおう。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	・食事中に訪問があれば一緒に食べたり、宿泊してもらおうようにしている。 ・行事に家族を誘ってよりよい関係の継続に努めている。		入居者様の自宅での様子を教えていただくようにする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親戚、友達等の訪問は歓迎している。実際に尋ねてきてもらっている。</li> <li>・ 墓参りを続けている利用者がおられる。</li> </ul>		<p>出来れば行きつけの美容院等へ行ってもらうようにしたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おやつ、食事時間は、スタッフも一緒に会話をしながら食べている。役割を通して利用者同士の関係を円滑になるように働きかけている。</li> </ul>		<p>一人ひとりの個性を見抜き、間に立ち円滑に日常生活が出来るように努める。 認知症の違いでどのように接してよいか分からないことがある。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービスの利用が終了された方にも訪問したりして継続している。</li> <li>・ 他の場所に行かれた方も、来て貰うように話している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係を断ち切らない付き合いを大切にしていきたい。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人ひとりの思い、希望を聞くようにしている。</li> <li>・ 日々のかかわりの中で声をかけ、把握につとめている。</li> </ul>		<p>家族から情報を得てできる限り本人本位に検討していく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族、本人から生活歴、心身の状態を聞いて把握する。</li> <li>・</li> </ul>		<p>この方は何がして欲しいのか、何が出来るのかを考えてサービスしていく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出来る能力を見極め、役割を見つけ役立っているという思いを常に持ってもらう。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人、家族の思いを話し合っ一番に取り入れている。</li> <li>スタッフ間で情報を共有し必要なケアを計画に生かし日々の支援の目標にしている。</li> </ul>		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状に即してサービス提供をしている。</li> </ul>		問題が発生したらその都度カンファレンスしてその人にとってよいケアを考えていく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕の申し送りの時起こったことを掘り上げて報告することでスタッフ間の共通認識として深め実践や見直しに役立っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者と家族が安心して暮らせるように、必要な支援を自主サービスとして提供している。前向きに模索しながら支援している。</li> </ul>		利用者や家族の変化する状況や重度化していく状況、要望に応じて臨機応変に提供していきたいと思う。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が安心して暮らし続けられるように、それぞれの役割で協力してもらっている。(駐在所、民生委員)</li> <li>ボランティアへ協力を呼びかけている。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			必要に応じて事業所以外のサービスも取り入れたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・運営推進会議に参加されるようになり、情報や協力をききづいている。		地域包括支援センターと連携をはかり協働しながら本人本位の支援につなげたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	・母体が医療機関であるため家族が希望するかかりつけ医になっている。 ・基本的には家族同行の受診になっているが不可能なときはスタッフが代行している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・院長先生の紹介で診断や治療に行きやすく支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・看護職員を配置しており利用者の状態変化に応じた支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・入院によるダメージを極力防ぐため、本人の情報を医療機関に提供し、頻繁に見舞うようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	・重度化にともなう意志確認書を作成し事業所が対応できるケアを説明している。		スタッフの負担が大きいため研修や、勉強会を充実させる。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。			利用者のニーズがある以上はチームを「組んで」支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	・他の事業所に移られる時ケアプランや支援状況等を手渡し情報の提供を行なっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	・気を付けているが基本に沿わないことがある。		勉強会やミーティングの折皆で意識向上を図る。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・理念であり、目標でもある ・ゆとりの介護、入居者にあわせた支援を心がけている。		スタッフ側で決めたことを押し付けないようにする。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・理念、方針であるが・・・ ・スケジュールが無く一人ひとりに合わせた支援をすることを掲げている。		団体生活の最低限の決まりは仕方ないと思うが、自分より入居者様が一番ということを一統して行く。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で選んでもらうように支援している。</li> <li>美容院は入居者さまと相談してホームに来てもらっている。</li> </ul>		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつも一緒に食べたいものを考え、一緒に作り、一緒に片付けをして一緒に会話しながら食べている。</li> </ul>		無理強いににならないように声掛けに工夫をしている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の嗜好品は楽しめるように支援している。</li> </ul>		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オムツに頼らず出来るだけトイレで排泄できるように支援している。</li> <li>昼間は下着に尿取りパットを使用している。</li> </ul>		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>曜日を決めている。</li> </ul>		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>室温に気をつけて安眠できるように配慮している。</li> <li>一人ひとりの心身の状態に合わせて休んでもらう。</li> <li>なるべく日中の活動を促し生活のリズムを整えている。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能力に応じた役割をみだし楽しみを持って能力が発揮できるように支援している。</li> <li>・ 外食を計画して楽しみに待って張り合いにつなげている。</li> </ul>		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人ひとりの能力に応じて支援している。</li> <li>・ 近所のお店に買い物に行ってもらう。</li> </ul>		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物、散歩、ドライブなど何らかの形で外出支援をしている。</li> </ul>		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映画館、外食</li> <li>・ 海辺の別荘でバーベキューをして避暑を楽しんでいる。</li> <li>・ バス旅行、四季折々に外出して変化を楽しんでいる。</li> </ul>		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に電話など使用してもらっている。</li> </ul>		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歓迎している。おもてなしには十分配慮していきたい。</li> <li>・ 入居者の方がお茶をいれおもてなししてもらっている。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束によって受ける精神的ダメージについて認識して拘束ない支援を目指している。</li> </ul>		入居者一人ひとりの普通の生活を守るために「なぜこの人にこのようにするのか」自分に問いかけ意識して取り組む訓練を常にもつ必要があり勉強会を持つ。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>鍵をかけないことがホームの方針である。</li> <li>安全を守るためにチャイムをつけて出かける気配に気づく工夫をしている。</li> </ul>		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつも所在確認を個々で意識することを合言葉に努めている。</li> <li>業務をしながらも入居者のサインを察知できる訓練をするようにしている。</li> </ul>		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>かみそりなど刃物は預かっている。</li> <li>台所用品で危険なものは目に付かないところに保管している。</li> </ul>		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故報告書を提出して分析して再発防止に努めている。</li> </ul>		なかなか減らすことが難しいので一人ひとりの意識改革を行う。 報告・連絡・相談の徹底していく。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災訓練時に救急救命の心肺蘇生法と AED の使い方全員が年 1 回体験・習得するようにしている。</li> </ul>		慌てないように日ごろの訓練が必要だと思う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。			ホームの火災訓練に近所の参加を呼びかけ日ごろより連携がとれるようにしておく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。			自由と危険は隣り合わせなので常に家族と対応策を話し合う
( 5 ) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイタル、健康チェックでしっかり観察をする。異変時は院長先生に速やかに連絡する。</li> </ul>		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服薬ファイルの作成や処方箋を整理してスタッフが内容を把握できるようにしている。</li> <li>・ 服薬時は本人に手渡し、服薬を確認している。</li> </ul>		薬の重要性、誤薬の危険を理解する。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べてしっかり体を動かし自然排便を促すように努力している。</li> <li>・ 一日の水分量、食事量を記録している。</li> </ul>		繊維のある食べ物を摂るようにする。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隔月で歯科衛生士の指導を受け口腔内の清潔を保っている。</li> <li>・ 毎食後歯磨きの支援をしている。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一日の水分量が1500ccは摂るようにしている。記録して気をつけている。</li> <li>・ 栄養のバランスは常に気をつけている。</li> </ul>		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常に意識している。</li> <li>・ 手すり、ドアノブ、椅子を次亜鉛素酸ナトリウム希釈液で毎日拭いている。</li> <li>・ 手洗い、うがいを励行している。</li> <li>・ 嘔吐時の始末グッズを用意している。</li> </ul>		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食中毒予防のために無駄を作らないで食べきるようにしている。</li> <li>・ こまめに消毒をしている。</li> </ul>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつも季節の花が咲いているようにしている。</li> <li>・ スロープがありバリアフリーになっている。</li> <li>・ 不要の段差がない。</li> </ul>		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 殺風景でないようにほっと安らげるようにいつも花がある。</li> <li>・ 毎月お花教室があり利用者の部屋に飾っている。</li> </ul>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソファのコーナー、畳のコーナー、テーブルと空間がありそれぞれの居場所になっている。</li> <li>・</li> </ul>		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで使っていた思い出のものを持ち込まれている。</li> <li>・ 花を飾って楽しんでいる方もいる。</li> </ul>		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温度、湿度は記録し配慮している。</li> <li>・ 喚起には気をつけている。</li> <li>・ 冬場加湿器を使い湿度に気をつけている。</li> </ul>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入居者の現状にあわせて環境の改善に取り組んでいる。</li> <li>・ トイレ、風呂場には要所にきめ細かく手すりが配置してある。</li> </ul>		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動の失敗があるのを最小限にするためにその方の個性(癖)など把握して対応している。</li> </ul>		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植木、プランタ、菜園の手入れ(水やり、草取り)など手入れができる。</li> </ul>		